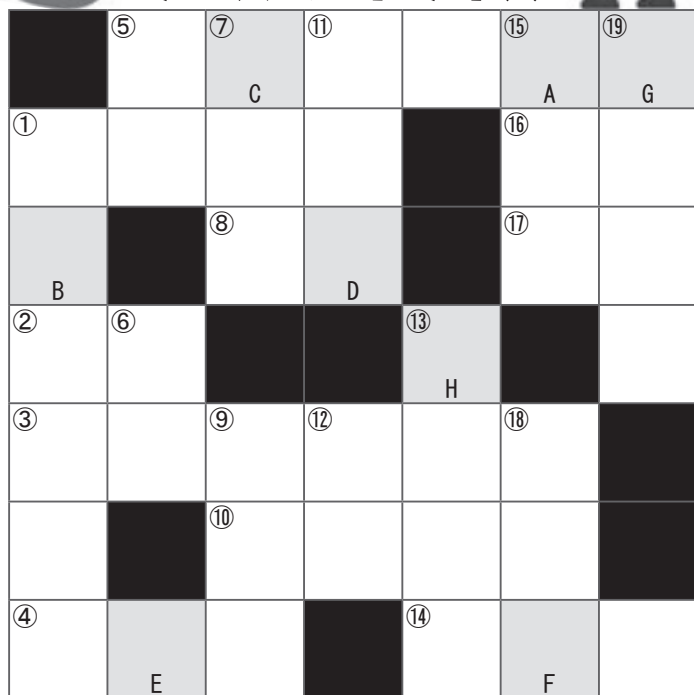




お年玉プレゼント!

クロスワードクイズ



明けましておめでとうございます

2023 年はコロナ禍を経て、組合員活動が活発に行われました。今年も元気に楽しく GO! 毎年好評の新春クイズ。今年はクロスワードです。ぜひ挑戦してみてください。

応募方法は、8 ページに掲載しています。

答え

正解者の中から6名に消費材福袋をプレゼント!

A	B	C	D	E
F	G	H		



タテ

- ① 生活クラブでは食料品や生活用品をこう呼びます
- ⑤ 邪気払いや無病息災を願って、節分にまくもの
- ⑥ 思いがけず幸運に巡り合うことを何からぼたもち?
- ⑦ 首の後ろ部分
- ⑨ 生活クラブは素性が○○○なものしか扱わない
- ⑪ 物に力を加えて元の形を崩したり、失わせたりすること
- ⑫ 幼児期に周りが話すのを聞いて自然に覚えた言語
- ⑬ 冬に大活躍する除雪機関車
- ⑮ 航空機が陸地を離れて飛び立つこと
- ⑱ 病気などが根本から完全に治ること
- ⑲ 組合員はコレを見て注文します



ヨコ

- ① 神様のいる聖域とその他を区別するために張るもの
- ② 年頭、宮中で和歌を披露しあう「○○会始の儀」
- ③ 生活クラブ北海道の粉石けん
- ④ 漢字で書くと「海豚」
- ⑤ 核ゴミはいらない。「北海道○○○○○○宣言」
- ⑧ 国が定めた産業製品に関する規格や測定法の略称
- ⑩ 地球の赤道に直角に交差するように両極を結ぶ曲線
- ⑭ 蕎麦に多く含まれている、血液をサラサラにする成分
- ⑯ 他人の幸福や利益のために尽くす○○的な人
- ⑰ おせち料理の定番といえば、何豆?

INDEX

新春に寄せて
生活クラブの力を発揮させる一年に 3

私たちがめざす福祉のかたちを考える 4~5

「ゲノム編集トマト」を受け取らないよう要請する
私たちの活動 6

2023 年度 生活クラブ福祉基金助成先団体紹介 7
NPO 法人 ぼの・ぼの / あさの会 / こども支援ワーカーズ みんなのいえ

生活クラブ Wind



組織委員会

各支部は今年度の支部活動を振り返り、2024年度の活動計画を話し合っています。そして、支部運営に欠かせない委員の募集も始まっています。

生活クラブは、支部活動を通して「食べ続けたい食」や「未来へつなげたい環境」を、組合員同士が教え学び合いながらつづけてきました。支部の活動が生活クラブの共同購入と運動を前進させて、活動の楽しさや意味を実感した委員経験者が豊かな地域づくりに参加しています。委員は協同組合の生命線でもあります。そんな魅力とやりがいのある生活クラブの委員を経験してみませんか？



消費委員会

12月4日、生活クラブ牛乳の生乳農家4人とサツラク農協との交流会を行いました。以前は5万本を超えていた牛乳の利用が、現在は3万本を切っています。直に生産者と会って話を聞き、もっと利用しよう、飲む人を増やそうと思いました。

生活クラブの活動の自慢は、消費材の生産者が本場に身近に感じられることです。コロナ禍を経ての2023年度は生産者交流会や米交流会など、直接生産者と会えるイベントを実施しました。組合員も生産者も会える喜びを満喫しています。さらに多くの語り合う場を企画するので、みなさん誘い合って参加しましょう。



石けん運動委員会

11月、東京都で石けんを使ったクリーニング店を営む茂木隆夫さんを迎え、「家庭でできるカラダにいい洗濯術」の講演会を開催しました。



環境や身体に与える影響を考え、30年ほど前に石けん洗いに切り替えたそうです。何よりも、汗や食べこぼしなどの水溶性の汚れは油性溶剤で洗うドライクリーニングでは落とすきれないとのこと。当日は実演も行い、ダウンコート・布団の洗い方や襟汚れ・シミの落とし方などの石けん洗いのコツ、洗濯表示で「水洗い不可」でも合成繊維の混紡率が高いほど家庭で洗えることなどを学びました。



サステイナブル委員会

生活クラブ北海道のホームページにある「Rびんの出し方動画」をリニューアルしました。委員会メンバーが分かりやすく説明しているので、班会やくろボ、新規組合員歓迎会などでも活用してください。



組合員が出した使用済みの500ml Rびんは、センターで回収したあと日本清酒㈱で洗ひんされ、生産者の福山醸造㈱へ搬送は(有)ひがしサイクルが担っており、すべて札幌市内でまわるしくみを作りました。みなさんも使い終わったびんは溜めずに、配達時に出してくださいね。



12月の理事会から

● 役員報酬規則の改正、役員報酬規程と常勤役員定年制規程等の新設について討議決定しました。

● 2024年6月11日開催の総代会に向け、総代定数と総代選挙および役員選挙日程について決定しました。

● 2024年度わくわくまつりの開催は10月20日(日)、ロイトン札幌に決定しました。

● 2024年度の支部大会における開催および議決方法について討議決定しました。

● 2024年度事務局部署体制を決定しました。

● 生活クラブデリバリーセンターにおけるCO2監査について報告がありました。

● 「世界最大級の変動帯の日本に、地層処分の適地はない」現在の地層処分計画を中止し、開かれた検討機関の設置を」と地球科学を専門とする研究者等の声明内容に、支持していくことを決定しました。

生活クラブの力を発揮させる一年に



たかしな ようすけ
1988年入協。第2センター長や本部事業推進課等を経て、2020年度より現職

生活クラブ北海道 専務理事 高階 洋介

新年、明けましておめでとうございます。
2024年を迎え、世界各地で起きている紛争や食料の不安定さが一日でも早く落ち着き、生活クラブ運動をすすめる皆さんにとって良き一年になるようお祈り申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスの影響から脱しきれないまま、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、気候変動が重なり、食品やエネルギーの高騰が私たちの生活を直撃しました。また、隣国のミサイルによって北海道の交通網がストップしたことは記憶に新しく、イスラエルとパレスチナ・ガザ地区の武力衝突は、関係各国の利得狙いが見え隠れする世界秩序崩壊の序章ではないかと思うほど杌然としない出来事です。

このような世界レベルの不安が続く中、生活クラブ北海道は41年目に入りましたが、現在、拡大が計画通りに進んでいません。消費材価格の上昇に起因する利用低迷もあり、事業的に厳しい状況を作り出しています。私たちの結集力の低下は、共に生活クラブ運動をすすめる生産者や生活クラブの社会課題解決力に影響するのは明白です。

そこで、今年は自ずと現状を打破するために、私たちはどのような行動を起こさなければならぬのかを考え、実践する人を増やすことが優先目標になると言えるでしょう。しかしながら、実際にどうしたら良いのか迷う人も多いはずです。そのような時は、やはり基本に立ち返ることが重要になると思います。生活クラブとは何か？なぜ、出資、利用、運営が生協の3原則として

あるのかなど、日常ではつい忘れがちになるこれらを改めて思い返してみよう。そうすれば、一人が望んでも消費材を作ってくれる生産者が現れないことや、買う力を結集し利用を継続する過程で、多くの共感者を自分たちが増やしていく必要性が見えてくるのではないのでしょうか。

約3年間のコロナ禍は、生活クラブにとって活動ができなかった面で大きな損失だったのは間違いありません。しかし、人に会って思いを伝えることや、生産者との交流が重要だと改めて気づかせてくれた充電期間だったとも言えます。その意味においても第十三次中期計画が始まる2024年は、たくさんの方が生活クラブを語り、消費材を利用する人を増やすチャンスの年と捉え、生活クラブの力を大いに発揮させる一年としましょう。

は、たすけあうしくみとしてエコロ制度をつくり（1993年1月）、その後、自らが福祉の未来を描く型福祉を支援・推進する福祉基金を創設（2003年）、地域福祉づくりの実践の場として生活クラブ館・（年）、生活クラブ館・とよひら（2020年）を建設し、生活クラブの福祉として取り組んできました。そ格的に取り組み20年が経ち、デイサービスセンターを閉所したことを機に、あらためて組合員が福年になるようにと福祉担当理事会が中心となってさまざまな機会を計画・実施してきました。

私たちがめざす 福祉のかたちを考える

映画上映会『僕とケアニンとおばあちゃんたちと。』

私たちが望む福祉の形を考えるため、神奈川県藤沢市にある介護施設「あおいけあ」の1年を追ったドキュメンタリー映画の上映会を開催。介護はする人、される人ではなく平等な立場のたすけあいなのだと、理解が深まりました。



福祉担当理事会主催の上映会
〈7/1 カナモトホール〉

豊平・手稲・いしかり・北広島の各支部でも開催し、全体で200人が参加しました。

運営委員長研修 福祉に関する施設などを見学〈7/21～22 東京都〉

2023年に設立30年を迎えた社会福祉法人^{ゆうゆう}悠遊。自分の親や自分自身が歳を取っても住み慣れた地域で暮らすためのしくみが必要と考え、「必要なしくみは自分たちでつくる」という生活クラブのスピリットに基づき設立されました。30年前に「将来必要となるもの」を見据え、地域の中で着々と積み重ねてきたという先見性と問題を見る目の確かさに驚きました。



見学したグループホームでは入居者のペースで生活できるように、「できることを奪わない待ちの介護」をしていました。集まって歌っていた入居者の皆さんは、にこやかで穏やかな表情でした（写真）。一人ひとりが理解され大切にされている環境が人間にとっていかに大切か、本当の支援とはどういうことかを考えさせられました。（いしかり支部 清水 睦）

委員対象 福祉の研修〈9/11〉

生活クラブの地域福祉づくりの実践の場として生活クラブ館・、生活クラブ館・とよひら、子育て支援親子ひろば「ほっと」などを見学し、福祉の取り組みを学びました。

『生活クラブ』2023年10月号に掲載



生活クラブ館・とよひら



生活クラブ館・北広島

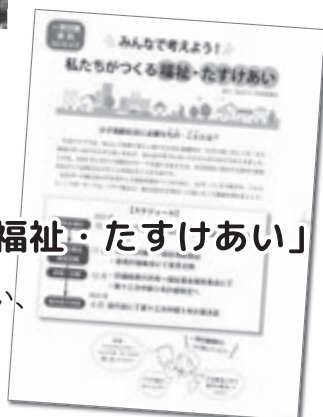


子育て支援親子ひろば
ほっとたいむ 大谷地

組合員一斉討議

「みんなで考えよう！ 私たちがつくる福祉・たすけあい」

組合員が班会やくらぶコミュニティなどで話し合い、意見を書いて提出しました。



通年 豊平区における地域福祉づくり

福祉担当理事会が中心となり豊平支部の協力も得ながら、デイサービスセンターがあった場所を起点



東2条公園横での「あみーか」を使った展示説明会

にイベントや展示説明会を行い、組合員や地域の人と会う活動をしました。

11月 福祉・たすけあいを考えるバスツアー

社会福祉法人 ゆうゆう(当別町)の各施設を見学〈11/1〉

「社会福祉法人ゆうゆう」は、共生のまちづくりをすすめている団体です。放課後等児童デイサービス、障がいを持つ方の居住・就労の場、共生型コミュニティ農園・レストラン、大学内カフェなど多岐にわたる福祉事業が、まちづくりへと展開しています。

大学在学中、障がいのある子を持つ母親との出会いから商店街の空き店舗で一時預かりを始めた大原さん。その後、地域住民の困りごとをサポートする活動も始めたものの、すぐには依頼が来ませんでした。そこで、信頼を得るためいろいろなところへ出向き地域の人と顔を合わせていくと、2～3年目からどんどん依頼が増えて広がっていき、卒業後に起業しました。ゆうゆうのビジョンは「ひとりの想いを文化にする」。「福祉は、ひとりのニーズからしか生まれない」という実践を大切にしています。

参加した組合員からは、来てよかったという声が多くありました。これからの福祉を考えるヒントが詰まったバスツアーでした。



「共生型コミュニティ農園へこべこはたけ」に併設するレストランの小鉢御膳。仕切りがあり、障がいのある人でも配膳しやすいよう工夫されています

参加者の声

感銘を受けた。身近にこんなところがあったとは!

障がいを持った人が生きていける社会=私たちも暮らしやすい社会

介助する側ではなく、される側の視点で考えるべきという考えにハッとしました



理事長 大原裕介さんの講演



当別町共生型地域福祉ターミナル。「困ったときはお互いさま」の精神で、公的制度では賄えない部分を住民がサポートするコーディネート機能を持つ

共生型地域福祉ターミナルはエコロの考え方に近いと思った

一人ひとりと心を通わせてつながり、多くの人を巻き込んでいく姿に感動!

12月 福祉基金報告集会 〈12/9〉

福祉基金賛同者の拠出金が、どのように生活クラブの福祉活動に使われたのかを報告。助成先団体の活動紹介や、7月の運営委員長研修と10～11月の組合員一斉討議結果の報告もあり、これからの生活クラブの福祉について考える場となりました。

2024年

1月 組合員一斉討議報告

10～11月でおこなった組合員一斉討議の開催状況や意見などをまとめ、報告しました。※2024年1月第1週発行の生活クラブニュースをご覧ください

2024年度は

「あったらいいな」を実現するために動き出しましょう!

今後の生活クラブがすすむべき福祉を考える1年にすることを活動方針に掲げた2023年度。まずは知ることから始め、一人ひとりが考え、組合員同士が集まり話し合い、意見を共有してきました。組合員からは、年齢・性別・状況に関係なく集える場、一人ひとりの居場所をつくることを望む声が多く出されました。これまで組合員同士のたすけあいとしてエコロ制度、地域のたすけあいとしてたすけあいワーカーズづくり、そして主体的に関わる市民参加型福祉をすすめてきました。これからは、地域に住む人みんなで「たすけあえるしくみ」も考えたいと思います。2023年度の活動で得たことをもとに理事会で話し合い、2024年6月の総代会で提案します。

生活クラブで
うと市民参加
北広島(2014
して福祉に本
社を考える1

7月

9月 運営

生活
北広島
たいむ
※『チ

10月 11月

生活

「ゲノム編集トマト」を 受け取らないよう要請する 私たちの活動

生活クラブでは、「疑わしいものは使わない」の原則から遺伝子組み換えおよびゲノム編集作物・食品に対し、反対の姿勢をとっています。消費委員会は今年度、「知らなくて大丈夫？子どもが利用される『ゲノム編集トマト』の実情」と題した学習会を開催し、10月25日に札幌市へゲノム編集トマトの種苗を受け取らないよう申し入れを行いました。各支部でも、自治体や小学校などに要望書を届ける活動を行いました。

ゲノム編集は、特定のDNAを切断し遺伝子の働きを止める際に目的以外のDNAを切断してしまう可能性がある、危険を伴う遺伝子操作技術です。しかし、国は「ゲノム編集は遺伝子組換えと異なる」「品種改良で起こる突然変異と区別できない」として、2020年12月からゲノム編集食品のトマトが販売可能になり、現在、トマト・マダイ・トラフグ・トウモロコシの4品目が食品表示義務もなく、市場で流通しています。

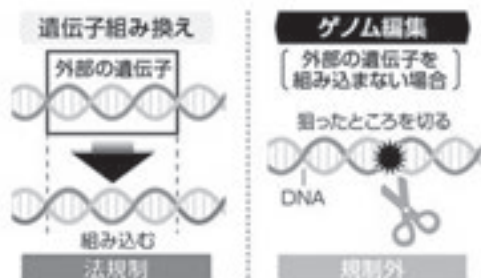
2021年秋、ゲノム編集トマト「シシリアンルージュ ハイギャバ」を開発販売する会社が種苗を福祉施設や教育施設へ無償配布する計画を発表。これを受け、生活クラブ北海道が事務局を担う「北海道食といのちの会」(2021年設立)は、12月に北海道179自治体の首長および教育委員長へ向け、「教育機関や施設等においてゲノム

編集トマトの種苗を受け取らないよう要請する文書と回答書」を送付しました。その結果、回答があった156自治体のうち「受け取らない」は55、「受け取る」はゼロでした。

道内の公立小学校では教材としてミニトマトを栽培したり、学校や施設の畑などで植えたりしています。学校等で、ゲノム編集食品だと知らずに無料配布のトマト種苗を受け取ることは、

安全性が確認されていないトマトを子どもたちが育て食べるだけではなく、自然界へ放出するという問題に意識せず加担することにつながります。「ゲノム編集トマトの苗を受け取るか否か」は各学校・施設の判断となっていることから、消費委員会では組合員や保護者、学校関係者などに広く知ってもらうことも目的として学習会を行い、各支部で要望書を届ける活動につなげました。

ゲノム編集食品を表示せず販売しているのは、世界中で日本だけです。まずは知ること、そして伝えることで共感する仲間を増やし、ゲノム編集食品を検証するしくみづくりや表示制度、情報公開を求める活動を生活クラブ運動グループ等と共にすすめていきます。



「もとの生物と異なる外部の遺伝子が残らないゲノム編集は遺伝子組換えではない」というのが国の判断

恵庭支部

本部消費委員会からの提案を受け、支部でも「ゲノム編集トマトとは」について学び機会を持ちたいと、9月8日に学習会を開催しました。事前に、組合員へはチラシで呼びかけると共に、地域のフリーペーパーにも掲載。知人への声かけも合わせ、参加は9人(組合員4人とその家族1人、組合員外4人)でした。天笠啓祐氏の講演会の録画を視聴し、その後意見交換の時間としました。「まずは知ることができて良かった」「テレビの情報だけでなく、自分の頭で考えることが大事」「小学生の子を持つ親として危機感を感じた」という意見が多くあり、わかって食べることの大切さを再認識しました。安全性が確認されていないゲノム編集トマト種苗の学校等への無償提

供をストップしたいと強く思い、機関紙でも組合員に「一緒に声をあげませんか？」と呼びかけました。

組合員であり市議の新岡さんと共に、要望書と回答書を市長と教育長へ提出(11/6)。また、市内の小学校7校へは郵送し、最寄りの小学校には組合員2人と共に手渡しし、子どもたちの食環境を守りたい想いを伝えることができました。



小学校の保護者である組合員と提出(11/29)

〈恵庭支部担当理事 竹森 明子〉

2023年度 生活クラブ福祉基金

助成先団体紹介 Vol.2



「生活クラブ福祉基金」は意志ある組合員の毎月100円の拠出で、生活クラブがすすめる福祉事業・活動に使われています。また、地域で福祉活動を広げている団体に助成しています。2023年度に助成した12団体から、今回は3団体を紹介します。

子どもたちの笑顔が見られるように

NPO法人 ぼの・ぼの

代表 石綿 仁美さん

子ども食堂をやりたいと思っていた「カフェみるこ」のオーナーから場所の提供を受け、「みんなへ安心安全なごはんを提供しよう」という思いから2022年にオーナーを含め3人で立ち上げました。主な活動は、子ども食堂・学習支援・地域コミュニケーションの充実です。2023年に法人格を取得し、もっと認知度を上げるため2カ所を地区センターで「ぼの・ぼの食堂」としてスタート。たくさん届いた支援品の食材を見てからメニューを決め、調理しています。持ち帰りのお弁当のほか、その場で食べってもらう食を含めた約130食を、ボランティアの人たちと17時まで作り終えます（写真）。会場は13時から開放し、夕方の子ども食堂までお茶を飲んでゆったり過ごしたり学習したり、思い思いに過ごせます。インスタを見て来てくれた高校生や塾の先生たちが学習支援にあたるなど、たくさんの方の有志の方々に支えられています。助成金は2カ所の会場費に充てました。

自分たちができることには限界があるので、「私もやりたい!」という人たちが増えるようサポートをして、多世代が気軽に安心して集える居場所が色々なところに来たらいいなと思っています。

(聞き手/高橋)

多様性を認め合い 誰もが暮らしやすい社会に

あさの会

代表 吉 裕子さん



11月のイベント告知チラシ(上)
6月のイベント参加者と(下)

「助産院あさ」の利用者さんからの声がかきつけて、子育て中の人たちがつながり、話をしたり学びあったりできる場「あさの会」を2015年に始めました。

当初は、赤ちゃんとの接し方や性教育などについて学ぶ小さな集まりでしたが、発達障がいのお子さんを持つ親が感じていること、性のこと、LGBTQのこと、家族間のジェンダーギャップのことなど、身近な生活の中にあるジェンダー平等や多様性について多くの人に知ってほしいと思うようになりました。助成金では、家族で参加できるワークショップを取り入れた体験型のイベントを2件開催。6月はLGBTQの当事者、11月は整理整頓のプロを講師に、性や家族間のジェンダー平等をみんなで学び考えました。今回のイベントを通して、子育て世代が家庭の中からジェンダー平等を実践することが持続可能な社会につながると実感し、今後活動していく勇気をいただきました。

(聞き手/石黒)

中高生の居場所「みんなの自習室」

子ども支援ワークショップ みんなのいえ

代表 鈴木 律子さん

生活クラブやPTAで知り合った仲間と共に、地域の子どものための豊かな育ちを応援したいと考え、2019年に学童保育を始めました。学童を続けながらも、常に子どもたちの困りごとが何かを話し合うなかで、「中高生の塾代が高い」「自習室が必要なのでは」の声が。そこで今年度から中高生が無料で利用できる自習室を開きました（写真）。問題集や参考書を用意して環境を整え、お茶や手作りのおやつも提供します。今はまだ利用は少ないですが、学童を利用していた子が来たり、不登校だけど自習室には来られるという子がいたり、子どもたちの安心できる居場所になっていきます。助成金は自習室の備品購入とリーフレットの作成に充てました。近隣の方や学校の先生への周知に役立っています。



子どもは「未来」の準備のためだけに生きている存在ではありません。今、この瞬間の子どもの笑顔や満足を大切に考え、地域の人々とのつながりを大切に、これからも活動を続けていきたいです。

(聞き手/五十嵐)

information

発行 生活クラブ生活協同組合 札幌市厚別区大谷地東一丁目4-15 TEL 011(887)8891 FAX 011(887)7226
発行日 2024年1月20日 編集 広報委員会 / W・C・O・P・L・A・N・S・E・P・O



新春クイズの応募方法

クイズの答えと当選者はチュプ2月号で発表します。

【応募方法】

- ① クロスワードクイズの答え
- ② 支部名
- ③ 班コード or 戸配コースコード
- ④ 組合員氏名
- ⑤ 電話番号
- ⑥ 本誌への意見や感想

オスス×消費材が
つまっています！



①～⑥までを記入し、FAX・メールまたは配達時に渡してご応募ください。

【宛 先】生活クラブ本部 広報委員会 川瀬まで
FAX (011) 887-7229
E-MAIL yasu@club.s-coop.or.jp

【締め切り】2月3日(土) 必着

チュプでは、読者モニターを募集しています。興味のある方はお気軽に本部 川瀬までお問い合わせください。



Instagram・Facebook もご覧ください！

本ページに記載しているイベント等については、生活クラブニュースを見て、参加申し込みをしてください。

問合せ 生活クラブ本部 TEL 011(887)8891

<https://www.hokkaido-seikatsuclub.coop/>

＼今年度 最初で最後の／ 豚肉解体講習会



日 時 2月29日(木) 10:30～13:30

場 所 札幌エルプラザ 4F 料理実習室

内 容 今年度の活動を振り返り、(株)平田牧場 三元豚について学び、焼肉をします。生産者とともに生活クラブの豚肉を味わい、知り尽くしましょう。

ニュース

2月1週

主催 本部消費委員会

ほっこりまったり 語ろう 学ぼう 石けん講座

日 時 2月19日(月) 10:00～12:00

場 所 札幌エルプラザ 2F 食材研究室

内 容 頑固なえり汚れの落とし方やグリルのつけ置き洗いなどの実演のほか、粉石けんを使った洗濯機での洗濯のポイントを伝えます。「我が家の石けんライフ」と題して、おしゃべりタイムもあります。

ニュース

1月3週

主催 石けん運動委員会

講演会 フィービラの森とヒグマ

講演会後は
牛乳料理の試食会♪

日 時 2月17日(土) 10:00～13:00

場 所 生活クラブ本部 A会議室

内 容 森で作業する時、注意しなくてはならないヒグマ。酪農学園大学 佐藤喜和教授からヒグマを正しく知って、正しく怖がるための話を聞きます。

ニュース

1月3週

主催 森づくりプロジェクト



ガスレンジのグリルが壊れた！

厚別支部 津田 泉

2009年秋、15年間大活躍のグリルが壊れ、魚焼きはフライパンとオーブンで何とかしのいで年明けに新調した。やっぱりグリルは便利！あれから14年…昨年の秋、またまたグリルが壊れた。「グリルはトーストや野菜類を焼くときだけ。魚はフライパンよ！手入れも楽だし」先輩組合員さんの言葉に目からウロコ。

右手首の骨折で包丁を持たない時、スライサーの便利さに感激した。手の力も弱くなり、年齢的にも体力の低下をひしひしと感じ、調理道具は軽い・手入れが楽と、選ぶ基準が「体に負担のかからないもの」に変わってきた。衣類や身のまわりの道具たちも然り。この選ぶ基準は断捨離の際にも使えるので、作業はしやすくなるはず。ガスレンジのコンロは何か作動しているが、そう長くはもたない。カタログを眺めてはため息…その日が来るまでフライパンとオーブンで頑張るわ！

組合員のエッセイを募集します。4000字程度。テーマの指定はありません。本部 川瀬まで、ファックスか業務便で送ってください。



道産関係材を使用した紙を使用しています